



▶大きなたつま芋を丁寧に収穫する園児

▼「芋ほり」後に笑顔で記念撮影



晴天に恵まれた9月29日、救護施設しみず園主催で地域交流、異世代交流の一環として、多久保育園との「芋ほり」交流がしみず園の畑で行われました。

入所者25人と多久保育園の4歳から5歳児の園児27人が参加し、大きく育った「さつま芋」を収穫しました。

「自然に触れるいい体験になると思います」としみず園の河野良治園長があいさつし、収穫がスタート。しみず園の入所者が土を掘り返し、大きな「さつま芋」が姿を現すと、園児たちの歓声が沸き上がりました。

今年5月に苗を植え、入所者が無農薬・有機栽培で丁寧に育てたさつま芋を、約50kg収穫。入所者と園児たちは、さわやかな秋空のもと、心地よい汗を流しました。

収穫のお礼として、しみず園から園児たちに収穫したさつま芋とお菓子が手渡されると園児たちは「ありがとうございました」と元気なあいさつで応えました。

しみず園では、約3,000㎡の畑でさつま芋のほか40種類の野菜を育てており、園で食べる以外にも市内の店舗や軽トラ市でも販売されています。

## 秋の恵み「さつま芋」の収穫で交流

しみず園・多久保育園の合同芋ほり

## こだわりの「地酒」と芸術で彩るまちなかのリビング

9月28日、多久駅に隣接するまちづくり交流センター「あいぱれっと」を会場に、多久市観光振興協議会主催で、銘酒や市内3窯元の作品展示・販売会「『酒』と『器』展」が行われました。

この催しは、地元の「銘酒」や「食」を堪能してもらおうと行われたもので、東鶴酒造（東多久町）による地酒の試飲・販売、市内飲食店によるミニ軽トラ市、多久高校登山部によるポルダリング教室、平筆を使ったグラデーションアート『ワンストロークペインティング教室』も行われ、多くの来場者でにぎわいました。

当日は佐賀駅～唐津駅間をJR九州企画の『九州横断特急』が限定運行し、沿線の銘酒や食を味わう「『利き酒』の旅」も開催。多久市観光公使の多久翁さんも駆けつけ、孔子の里獅子舞による演舞、物販コーナーも設置されるなど、銘酒と食、芸術で来場者をもてなしました。

利き酒の旅に参加した竹内豊さん（佐賀市）は「多久の文化や地酒を堪能できました。美味しいお酒や食を一度に楽しめる良い機会でした」と充実した表情で話しました。

「酒」と「器」展＆「利き酒」の旅

▶野中保園多久市観光協会会長の発声で一斉に乾杯



◀銘酒を引き立てる地元窯元による酒器の展示・販売

10/1 Wed.

### 第2回 チャレンジ!佐賀県1万人で乾杯プロジェクト



10月1日の日本酒の日にあわせて、佐賀県内約460の飲食店で「第2回 チャレンジ!佐賀県1万人で乾杯プロジェクト」が行われました。

多久市内では18店舗、約270人が参加し、19時30分に合わせ、一斉に日本酒で乾杯しました。

でんでんカフェ（あいぱれっと内）では、SNSやラジオで企画を知った約30人が参加。多久市商工会会長の飯盛登さんの「多久の発展を願います」の音頭で乾杯し、この日集まった仲間と楽しいひとときを過ごしました。

県内の乾杯参加者数は、前回より約900人増加しましたが、8,077人と、残念ながら目標の1万人に届きませんでした。

9/26 Fri.

### 交通安全マナーアップキャンペーン



「秋の交通安全県民運動」にあわせて、南多久町で交通安全マナーアップキャンペーンを行いました。

小城警察署をはじめ、多久地区交通安全協会、佐賀県自家用自動車協会、交通安全母の会、交通安全指導員、こばと保育園園児などが参加しました。

園児たちの「安全運転をお願いします」のかわいい声に、ドライバーは思わずにっこり。交通安全啓発チラシと竹の里（東多久町）で作られた竹炭を手渡しました。

現在県内では、昨年を大きく上回るペースで交通死亡事故が発生しています。交通事故に注意し、安全運転を心がけましょう。